

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

ナシ収穫後における黒星病防除の徹底について

今年は、7月以後平年に比べ黒星病が多発生となりました（図1）。本病菌は圃場内に残る落葉や芽鱗片（芽の鱗片生組織が露出した芽に感染、図2参照）で越冬し、翌年の伝染源となります。

翌年の発生を抑えるため、下記事項を参考に本病の防除を徹底してください。

記

1. 発生概況

- (1) 9月の巡回調査における発生葉率は2.0%（平年1.1%、前年0.8%）であり、平年及び前年よりやや多い（図1）。
- (2) 7月以降の発生葉率が高く、発病葉が残存しており、園内の菌密度は高いと予想される（図1）。

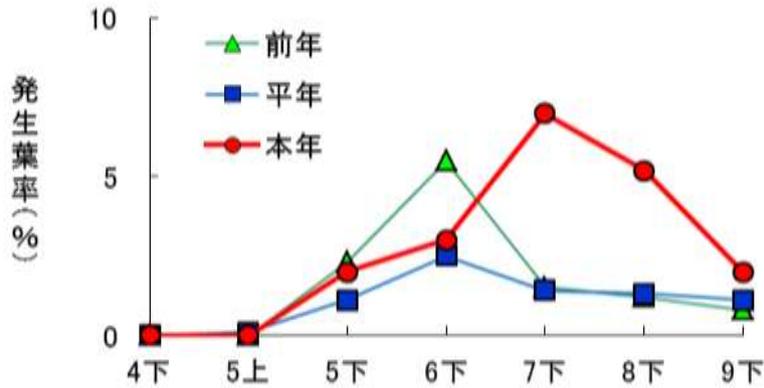


図1 巡回調査におけるナシ黒星病の発生推移（露地栽培‘幸水’）



図2 ナシ芽基部写真（写真左：鱗片生組織が露出した芽 写真右：非露出芽）
撮影日：2015年9月28日

2. 防除対策

- (1) 園内に放置した落葉は、本病の翌年の主要な一次伝染源となる（表1参照）ので、落ち葉を集め、園外で処分する。
- (2) また、本病に感染した芽基部の鱗片生組織についても、翌年の一次伝染源となる（表1参照）。そのため、鱗片生組織が露出し、本病に感染しやすくなる10月～11月中旬に有効薬剤を約10日間隔で2～3回散布する。
- (3) 二次伸長した枝、ぼけ芽を剪定時に剪除する。
- (4) その他、防除の詳細については「[平成27年度県病害虫防除のてびき（P298～303）](#)」を参照する。

表1 ナシ黒星病の第一次伝染源の種類と発病程度の関係
(2002年, 佐賀県果樹試験場)

第一次伝染源	発病葉率(%)	
	4月27日	5月17日
落葉 ^{a)}	9.0	72.0
芽基部鱗片 ^{b)}	0.0	7.7

供試樹：網室内で栽培したポット植えの‘幸水’を1区に3樹使用
(着生葉の最上部は地上部約120cm、最下部は約50cm)

発病調査：1樹約100葉における発病の有無を調査

- a) 3月27日に3月上旬に採取した前年黒星病多発園の落葉を半径1mに敷き詰めその上にポットを設置。
- b) 3月27日に3月上旬に採取した前年黒星病多発園のナシ枝約40本をポットのそばに設置。